

○提出者別タクソノミ作成ガイドライン 新旧対照表

新	旧																																																												
<p>6-4 定義リンクの定義</p> <p>6-4-1 定義リンクの属性の設定</p> <p>定義リンクには、次の図表にある属性を設定します。 また、定義リンクのうち、ディメンション設定時は、「図表 6-4-3 定義リンク(ディメンション)における要素間の関連付け(definitionArc)の設定一覧」にある属性を設定し、各要素の関連付けはアークロールを使用して設定します。</p> <p style="text-align: center;">図表 6-4-2 定義リンク(ディメンション)で設定する主な属性の一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>属性</th> <th>値</th> <th>説明</th> <th>注意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>use</td> <td>optional</td> <td>定義リンク上で関係が有効であることを表します。</td> <td>use属性を指定しなかった場合の既定値は「optional」です。 ※prohibitedは指定できません。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>closed</td> <td>true</td> <td>ディメンション定義範囲を指定します。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>contextElement</td> <td>scenario</td> <td>コンテキストのシナリオにディメンション設定を指定するための定義です。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>order</td> <td>0以上の任意の半角数値(小数も可)</td> <td>報告項目の表示順序を指定します。</td> <td>必ず設定します。 ※親の報告項目及びアークロールが同一である場合、order属性は一意になるように設定します。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>usable</td> <td>false</td> <td><u>インスタンス値を持たないドメイン又はメンバーであることを表します。</u></td> <td><u>usable属性を指定しなかった場合の規定値は「true」です。</u> <u>純資産の内訳項目[軸]の構成要素及び事業セグメント[軸]の構成要素に設定します。</u></td> </tr> </tbody> </table>	No	属性	値	説明	注意点	1	use	optional	定義リンク上で関係が有効であることを表します。	use属性を指定しなかった場合の既定値は「optional」です。 ※prohibitedは指定できません。	2	closed	true	ディメンション定義範囲を指定します。		3	contextElement	scenario	コンテキストのシナリオにディメンション設定を指定するための定義です。		4	order	0以上の任意の半角数値(小数も可)	報告項目の表示順序を指定します。	必ず設定します。 ※親の報告項目及びアークロールが同一である場合、order属性は一意になるように設定します。	5	usable	false	<u>インスタンス値を持たないドメイン又はメンバーであることを表します。</u>	<u>usable属性を指定しなかった場合の規定値は「true」です。</u> <u>純資産の内訳項目[軸]の構成要素及び事業セグメント[軸]の構成要素に設定します。</u>	<p>6-4 定義リンクの定義</p> <p>6-4-1 定義リンクの属性の設定</p> <p>定義リンクには、次の図表にある属性を設定します。 また、定義リンクのうち、ディメンション設定時は、「図表 6-4-3 定義リンクにおけるディメンションの設定一覧」にある属性を設定し、各要素の関連付けはアークロールを使用して設定します。</p> <p style="text-align: center;">図表 6-4-2 定義リンク(ディメンション)で設定する主な属性の一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>属性</th> <th>値</th> <th>説明</th> <th>注意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>use</td> <td>optional</td> <td>定義リンク上で関係が有効であることを表します。</td> <td>use属性を指定しなかった場合の既定値は「optional」です。 ※prohibitedは指定できません。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>closed</td> <td>true</td> <td>ディメンション定義範囲を指定します。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>contextElement</td> <td>scenario</td> <td>コンテキストのシナリオにディメンション設定を指定するための定義です。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>order</td> <td>0以上の任意の半角数値(小数も可)</td> <td>報告項目の表示順序を指定します。</td> <td>必ず設定します。 ※親の報告項目及びアークロールが同一である場合、order属性は一意になるように設定します。</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;">(追加)</td> </tr> </tbody> </table>	No	属性	値	説明	注意点	1	use	optional	定義リンク上で関係が有効であることを表します。	use属性を指定しなかった場合の既定値は「optional」です。 ※prohibitedは指定できません。	2	closed	true	ディメンション定義範囲を指定します。		3	contextElement	scenario	コンテキストのシナリオにディメンション設定を指定するための定義です。		4	order	0以上の任意の半角数値(小数も可)	報告項目の表示順序を指定します。	必ず設定します。 ※親の報告項目及びアークロールが同一である場合、order属性は一意になるように設定します。	(追加)				
No	属性	値	説明	注意点																																																									
1	use	optional	定義リンク上で関係が有効であることを表します。	use属性を指定しなかった場合の既定値は「optional」です。 ※prohibitedは指定できません。																																																									
2	closed	true	ディメンション定義範囲を指定します。																																																										
3	contextElement	scenario	コンテキストのシナリオにディメンション設定を指定するための定義です。																																																										
4	order	0以上の任意の半角数値(小数も可)	報告項目の表示順序を指定します。	必ず設定します。 ※親の報告項目及びアークロールが同一である場合、order属性は一意になるように設定します。																																																									
5	usable	false	<u>インスタンス値を持たないドメイン又はメンバーであることを表します。</u>	<u>usable属性を指定しなかった場合の規定値は「true」です。</u> <u>純資産の内訳項目[軸]の構成要素及び事業セグメント[軸]の構成要素に設定します。</u>																																																									
No	属性	値	説明	注意点																																																									
1	use	optional	定義リンク上で関係が有効であることを表します。	use属性を指定しなかった場合の既定値は「optional」です。 ※prohibitedは指定できません。																																																									
2	closed	true	ディメンション定義範囲を指定します。																																																										
3	contextElement	scenario	コンテキストのシナリオにディメンション設定を指定するための定義です。																																																										
4	order	0以上の任意の半角数値(小数も可)	報告項目の表示順序を指定します。	必ず設定します。 ※親の報告項目及びアークロールが同一である場合、order属性は一意になるように設定します。																																																									
(追加)																																																													

新

図表 6-4-3 定義リンク(ディメンション)における要素間の関連付け(definitionArc)の設定一覧

No	親要素	子要素	アークロール	属性の設定
1	ルート	表示項目	domain-member ※1	—
2	ルート	表	all ※1	closed 属性:「true」 contextElement 属性: 「scenario」
3	表	軸	hypercube-dimension※1	—
4	軸	ドメイン	dimension-domain ※1	usable 属性:「false」※2
5	軸	デフォルト	dimension-default ※1	—
6	ドメイン	メンバー	domain-member ※1	usable 属性:「false」※2

※1 “<http://www.xbrl.org/int/dim/arcrole/>”に続くアークロールの名称のみを記載。

※2 必要な場合に設定。

6-4-3 ディメンションの設定

6-4-3-1 ディメンションの要素

(略)

図表 6-4-5 ディメンションで用いる要素の概略

No	要素の種類	概略
1	表示項目	ディメンションによる表の主たる軸を構成する要素です。報告書インスタンスで、これらの要素に対して、メンバーごとの値をそれぞれ指定します。
2	表	ディメンションによる表の設定を宣言するための要素です。
3	軸	ディメンションによる表の従たる軸(表示項目以外の軸)を設定するための要素です。
4	ドメイン	軸の構成要素の親要素です。ディメンションで表される各軸に対して必ず設定します。 インスタンス値を持たない場合はusable属性に「false」を設定します。
5	デフォルト	コンテキストにおいてメンバー設定がないときの既定値としてのメンバーです。多くの場合、軸の構成要素の合計を表します。 「ドメイン」と同じ要素を用います。 ディメンションデフォルトが設定されている場合、そのメンバーに関するタグ付けに利用するコンテキストは、当該デフォルトメンバーの設定のないコンテキストになります。
6	メンバー	軸の構成要素です。 インスタンス値を持たない場合はusable属性に「false」を設定します。

旧

図表 6-4-3 定義リンクにおけるディメンションの設定一覧

No	親要素	子要素	アークロール	属性の設定
1	ルート	表示項目	domain-member ※	—
2	ルート	表	all ※	closed 属性:「true」 contextElement 属性: 「scenario」
3	表	軸	hypercube-dimension※	—
4	軸	ドメイン	dimension-domain ※	—
5	軸	デフォルト	dimension-default ※	—
6	ドメイン	メンバー	domain-member ※	—

※ “<http://www.xbrl.org/int/dim/arcrole/>”に続くアークロールの名称のみを記載。

(追加)

6-4-3 ディメンションの設定

6-4-3-1 ディメンションの要素

(略)

図表 6-4-5 ディメンションで用いる要素の概略

No	要素の種類	概略
1	表示項目	ディメンションによる表の主たる軸を構成する要素です。報告書インスタンスで、これらの要素に対して、メンバーごとの値をそれぞれ指定します。
2	表	ディメンションによる表の設定を宣言するための要素です。
3	軸	ディメンションによる表の従たる軸(表示項目以外の軸)を設定するための要素です。
4	ドメイン	軸の構成要素の親要素です。ディメンションで表される各軸に対して必ず設定します。
5	デフォルト	コンテキストにおいてメンバー設定がないときの既定値としてのメンバーです。多くの場合、軸の構成要素の合計を表します。 「ドメイン」と同じ要素を用います。 ディメンションデフォルトが設定されている場合、そのメンバーに関するタグ付けに利用するコンテキストは、当該デフォルトメンバーの設定のないコンテキストになります。
6	メンバー	軸の構成要素です。

新

6-4-3-4 ディメンション定義時の注意事項

- ➡ 値を設定しないドメイン又はメンバー
 ディメンションのドメインは、各軸に必ず設定します。株主資本等変動計算書等及びセグメント情報等については、ドメインがインスタンス値を持たないときは、usable 属性に「false」を設定します。
 例えば次の図表のように、株主資本等変動計算書に「純資産合計」を表示しない場合は、usable 属性に「false」を設定します。

図表 6-4-8 株主資本等変動計算書の例(値を設定しないドメイン)

	株主資本								純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式	株主資本合計	
		..	資本剰余金合計	利益準備金	××積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高									
当期変動額									
...									
当期変動額合計									
当期末残高									

「純資産合計」の列は表示上存在しませんが、ドメインであるため設定が必要な項目です。

値を設定しないときは、usable属性に「false」を設定

ディメンションのメンバーは、表示内容と整合するように詳細ツリーに設定します。したがって、値が設定されないメンバーでも表示上存在する場合は、詳細ツリーに設定が必要です。
 株主資本等変動計算書等及びセグメント情報等については、メンバーがインスタンス値を持たないときは、usable 属性に「false」を設定します。
 例えば次の図表のように、株主資本等変動計算書における「その他利益剰余金」は、小計の値を記載しないため値を持ちませんが、表示上は存在するため、詳細ツリーに設定し、usable 属性に「false」を設定します。

図表 6-4-9 株主資本等変動計算書の例(値を設定しないメンバー)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式	株主資本合計
		..	資本剰余金合計	利益準備金	××積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高								
当期変動額								
...								
当期変動額合計								
当期末残高								

「その他利益剰余金」は値を持ちませんが、表示上必要な項目です。

詳細ツリーに定義し、usable属性に「false」を設定

旧

6-4-3-4 ディメンション定義時の注意事項

- ➡ 値を設定しないメンバー
 (追加)

ディメンションのメンバーは、表示内容と整合するように詳細ツリーに設定します。したがって、値が設定されないメンバーでも表示上存在する場合は、詳細ツリーに設定が必要です。
 例えば次の図表のように、株主資本等変動計算書における「その他利益剰余金」は、小計の値を記載しないため値を持ちませんが、表示上は存在するため、詳細ツリーに設定します。

図表 6-4-8 株主資本等変動計算書の例

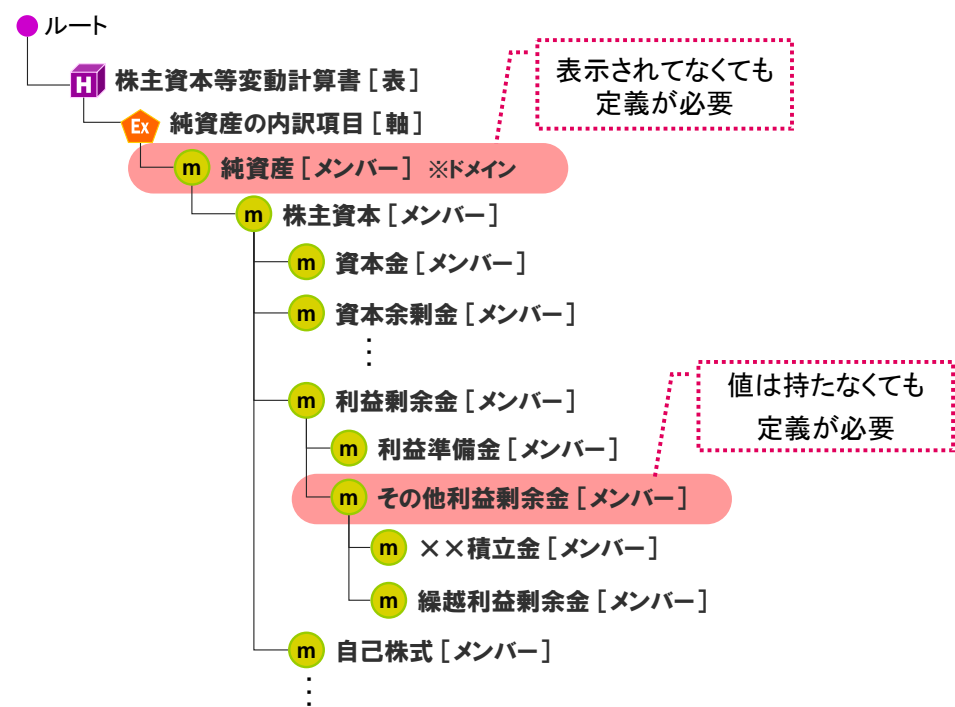
	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式	株主資本合計
		..	資本剰余金合計	利益準備金	××積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高								
当期変動額								
...								
当期変動額合計								
当期末残高								

「その他利益剰余金」は値を持ちませんが、表示上必要な項目です。

詳細ツリーに定義が必要

新

図表 6-4-10 株主資本等変動計算書の構造



旧

図表 6-4-9 株主資本等変動計算書の構造

